



バリアなしの、本のある広場に



● 問合先

伊万里市民図書館（☎23-4646）

2019年に、障がいのあるなしにかかわらず、すべての人がひとしく読書を通じて文化的な生活ができる社会をめざす、通称『読書バリアフリー法』が制定されたことをきっかけに、各地の図書館でさまざまな取り組みが行われています。

伊万里市民図書館では、平成7年の開館当初から障がいのある人の利用を想定して、施設・設備の設計や家具の製作が行われていたことから、だれもが使いやすい工夫が至る所に見受けられます。

しかし、開館して約30年が経過し、読書や図書館の利用が難しい人たちの理由も多様化してきました。そこで、視覚や聴覚の障がいに限らず、

肢体不自由や発達障害、移動手段などによる読書のバリア（障壁）に対応した『合理的配慮』が必要です。さらに近年は、技術の進歩により、そういった人たちの読書を支援する機器や、読みやすく・聴きやすく配慮された資料も多く出回るようになりました。図書館として必要な『もの』をそろえて、だれでも利用できるようにする必要があります。

これらのサービスの充実には、何も障がいのある人だけのためではありません。『だれにとっても読みやすい資料が、使いやすい形で利用できめざして、市民図書館は動き出しています。』





市民図書館バリアフリーの取り組み

平成7年に開館した市民図書館は、約30年前からバリアフリーの視点を持って設計された施設です。ここでは、バリアフリーになっている場所などを紹介します。



3

↑本棚はいちばん下を斜めに浮き上がらせるなど本が取りやすいように工夫されています



4

↑市民図書館の魅力のひとつは、窓口で職員とやりとりができることです

- ① 駐車場には障がい者用のスペースがあり、そこから玄関までの距離が近く、傾斜がほとんどありません。
- ② 建物の中に入ると、2階と3階にある書庫以外は段差がなく、車いすでもスムーズに移動ができます。また、2階や3階に上がるときはエレベーターが使えます。
- ③ 開架室は天井が高くなっていますが、本棚は145センチとやや低くなっています。これは、車いすに乗ったままで上の棚に手が届くように設計されているもので、いちばん下の棚は手前側が斜めに浮き上がっています。これも車いすに乗ったまま本を取ろうとしたときの負担を減らす工夫です。さらに、本棚の間隔も広がっていて、車いすでも安心して通ることができます。
- ④ 窓口はデスク方式で、職員もいすに座って対応しています。視線を合わせられるので、手続きのときにも気軽に話しかけることができます。



↑障がい者用トイレは男女両方ともにあります



1

↑傾斜がほとんどなく自動ドアが設置されている出入口



1

↑障がい者用駐車場は雨もしのげます



利用者にインタビュー

市民図書館の利用者で車いすユーザーの山口照子さんに、市民図書館を利用して感じたことなどを尋ねました。



山口 照子さん

Q 図書館のどのような点が利用しやすいと考えますか

障がい者用の駐車場から車いすに乗って玄関を入り、窓口の前に行くまでに段差がなく、出入口はすべて自動ドアになっていて困ることがありません。

また、駐車場は屋根があるので、雨の日でも濡れずに済みます。それに館内は段差がないので『こどものコーナー』に絵本を探しに行くときなどに助かっています。

Q 使ってみて良かったと思える場所はどこですか

障がい者用のトイレが男女別



になっているのはいいですね。

また、本棚と本棚の間も広くて動きやすいですし、上の方も下の方も自由に本が取れるので、気兼ねなく自分で選ぶことができます。

それと、いつも職員から積極的に声をかけてもらえることも嬉しいですね。窓口でも気軽に話ができるので、本について詳しく調べてもらっています。

Q おすすめする図書館のポイントはどこですか

館内のいろいろな場所で企画されている『テーマ展示』を見るのが好きです。至る所に特定のテーマで本が程よい高さに並んでいるので、回って眺めるだけでも十分に楽しめます。さらに、単におすすめるの本が置いてあるだけでなく、飾り付けが工夫してあったり追加の情報も貼ってあったりと、宝探しみたいで楽しくなります。自分の知らない事柄に出合えたときには感動しますね。



あなたの『読みたい』を助けます

市民図書館は、だれもが読書できるようにバリアフリー資料を用意しています。
ここでは、皆さんの『読みたい』を助けてくれるバリアフリー資料などを紹介します。

文字が小さくて読みづらい『大活字本』



大きな文字（14～22ポイント）で書かれた本です

書いてあることがわからない『LLブック』



『LL』はスウェーデン語『LättLäst』（やさしくわかりやすい）の略で、わかりやすい言葉、写真・絵入り、絵記号など、だれでもやさしくよめる本です

読みづらい？見えづらい？『オーディオブック』



オーディオブックは本を朗読する『聴く本』です。図書館では小説だけでなくハウツー本や『広報伊万里』のCD・カセットテープもあります

どんな年齢も『布の絵本、さわる絵本』



フェルトやボタン、ひもなどを使って作られた絵本で『みて』『さわって』楽しむことができます

見えにくい、見えない『点字図書』



点字に翻訳（点訳）された本です。手で触って文字を読みます

いろいろなタイトルの本をよみたい



佐賀県立視覚障害者情報・交流センター『あいさが』と連携していて『あいさが』所蔵の資料を市民図書館で借りられるサービスがあります

一行ずつ読みやすく！『リーディングトラッカー』



ページの読みたい行にあてると、視点を集中させて読むことができます

この本を読んでほしい『対面朗読サービス』



市民図書館で活動しているボランティアグループ『対面朗読草ひばり』が読みたい本や雑誌を代読してくれます



生きる希望の物語

4月17日(水) 14時～ 『桜色の風が咲く』

松本 准平/監督

小雪/田中 偉登/ほか/
出演

113分 2022年

9歳で失明、18歳で聴力も失いながら、盲ろう者として東京大学の教授となった福島智さん。そんな智さんと、彼を育てた母・令子さんの姿を、実話をもとに描き出す『生きる希望』の物語です。

第94回アカデミー賞作品賞受賞

5月15日(水) 14時～ 『コーダ あいのうた』

シアン・ヘダー/監督

エミリア・ジョーンズ/
ほか/出演

112分 2022年

CODA(コーダ)とはChild of Deaf Adultsの略語で『聾の親を持つ子ども』の意味。両親と兄の4人家族の中で1人だけ耳が聞こえる高校生のルビー。家族のために彼女は幼い頃から『通訳』となり、家業を毎日手伝っていました。歌の才能を見出だされたルビーは音楽大学への進学を薦められますが…。

★バリアリー日本語音声ガイド

バリアフリー日本語字幕入りで上映します

第75回カンヌ国際映画祭カメラドール特別表彰

5月19日(日) 14時～ 『PLAN 75』

早川 千絵/脚本, 監督

倍賞 千恵子/

磯村 勇斗/ほか/出演

112分 2022年

少子高齢化が一層進んだ近い将来の日本で満75歳から安楽死を選べるという生死の選択権を与える制度『プラン75』が施行された世界で、人々が最後に見出す答えとは。『生きる』という究極のテーマを全世界に問いかける衝撃作です。



上映会でバリアフリーを考える

市民図書館では、二つの上映会を行っています。ひとつは毎月第3水曜日に『昼さがりの映画会』、もうひとつは三か月に一度、日曜日に開催している『サンデーシネマ』です。いずれの上映会も170分の大画面で映画を楽しむことができます。4月と5月の『昼さがりの映画会』では、視覚・聴覚に障がいを持つ人と、その周りの人たちをあたたく描く作品を上映します。また、5月19日開催の『サンデーシネマ』では、音声による解説と、セリフや画面の説明が字幕で表示されるバリアフリーの形で上映を行い、どなたでも映画を楽しめます。観覧は無料で、事前予約も必要ありません。皆さん、ぜひ来場してください。



↑上映会会場の市民図書館ホール

読書の『壁』をなくしましょう

だれでも、いつでも、どこでも、何でも、自由に本が読めるというのは、実は当たり前前のことではありません。ひとたび大きな災害や戦争が起きれば、本すら手に入りませんし、感染症が広まれば図書館も休館します。

また、目の前に読みたい本や、聴きたいおはなしがあっても、視覚や聴覚、発達・知的・肢体不自由などさまざまな障がいや、高齢や病気による視力の低下、さらには遠隔地や経済的な理由など、読書を妨げる『壁』が私たちの周りにはたくさんあります。

これらの『壁』をなくしたり、低くしたり

することが『読書バリアフリー』と呼ばれるものです。今回紹介していますように市民図書館でも率先して進めています。

また、このことは障がいのあるなしにかかわらず、すべての市民の読書環境や学習環境を整えることにもつながります。

私たちが、いつ読書が困難になっても、読むこと・聴くことをあきらめないで済む社会を作っていくようにしましょう！



伊万里市民図書館 館長 鴻上 哲也